

製品名: HLA-DRA (4K6) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe12087**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:100-1:1000,ICC/IF 1:200-1:500,FC 1:20-1:50
分子量	29kDa

抗原情報

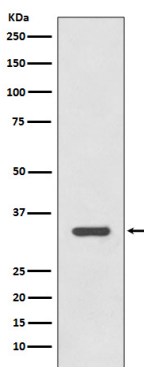
遺伝子名	HLA-DRA
別名	HLA-DR; MLRW; HLA-DRA1; MHC class II antigen DRA; HLA class II histocompatibility antigen, DR alpha chain; HLA DRB1; DRA;
遺伝子 ID	3122.0
SwissProt ID	P01903
免疫原	ヒト HLA-DR の合成ペプチド

背景

HLA-DRA は、HLA クラス II α 鎖パラログの一つです。このクラス II 分子は、膜に固定された α 鎖と β 鎖からなるヘテロ二量体です。細胞外タンパク質由来のペプチドを提示することで、免疫系において中心的な役割を果たします。クラス II 分子は、抗原提示細胞 (APC: B リンパ球、樹状細胞、マクロファージ) に発現します。抗原提示主要組織適合抗原複合体クラス II (MHCII) 分子の α 鎖です。 β 鎖 HLA-DRB と複合することで、HLA-DR 拘束性 CD4 陽性 T 細胞上の α - β T 細胞受容体 (TCR) によって認識される抗原ペプチドを、専門抗原提示細胞 (APC) 上に提示します。これにより、抗原特異的な T ヘルパーエフェクター機能 (抗体介在性免疫応答とマクロファージ活性化の両方) が誘導され、最終的に感染性病原体と変異細胞が排除されます (PubMed:29884618、PubMed:17334368、PubMed:8145819、PubMed:15322540、PubMed:22327072、PubMed:27591323、PubMed:31495665、PubMed:15265931、PubMed:9075930、PubMed:24190431)。典型的には、リソソーム内でエンドサイトーシスされた抗原のタンパク質分解によって生じる 10~30 アミノ酸からなる細胞外ペプチド抗原を提示します (PubMed:8145819)。腫瘍微小環境において、腫瘍常在型抗原ペプチド (APC) において、アポトーシスを起こした腫瘍細胞の貪食または分泌された腫瘍タンパク質のマクロピノサイトーシスを介して主に生成される抗原ペプチドを提示する (PubMed:31495665)。マクロオートファジー後にオートリソソームに捕捉された細胞内タンパク質由来のペプチドを提示する。マクロオートファジーは、胸腺における T 細胞の選択と中枢免疫寛容に特に関連するメカニズムである (PubMed:17182262、PubMed:23783831)。免疫優勢エピトープの選択は、病原体由来の抗原ペプチドの場合は「最初に結合し、後で切断/トリミングする」、自己抗原/自己ペプチドの場合は「最初に切断し、後で結合する」という 2 つの処理モードに従う (PubMed:25413013)。ペプチド N 末端の位置 1 にあるアンカー残基は、通常、大きな疎水性残基であり、MHCII 分子との高い親和性相互作用に不可欠です (PubMed:8145819)。

研究分野

画像データ



Raji 細胞溶解物中の HLA-DRA 発現のウェスタン ブロット分析。